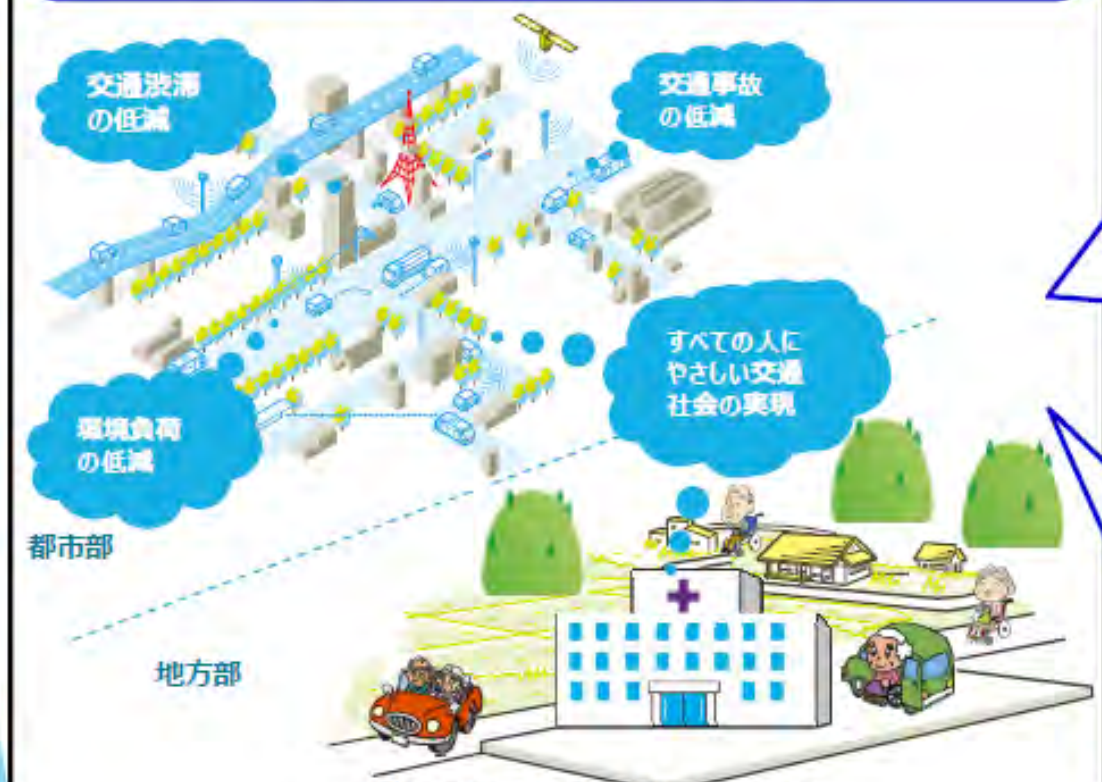
プロジェクト１：次世代交通システム・自動走行技術の活用

SIP （戦略的イノベーション創造プログラム）等の研究開発成果を最大限活かし、①2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での東京臨海部での次世代都市交通システム（ART: Advanced Rapid Transit）を実現。さらに高度な自動走行技術を活用し、②高齢者等の移動制約者に対する移動手段の確保、③トラックの隊列走行の実現を図る。

SIP･自動走行システムの取組



実現をめざす社会の姿

①ART（Advanced Rapid Transit）の実現

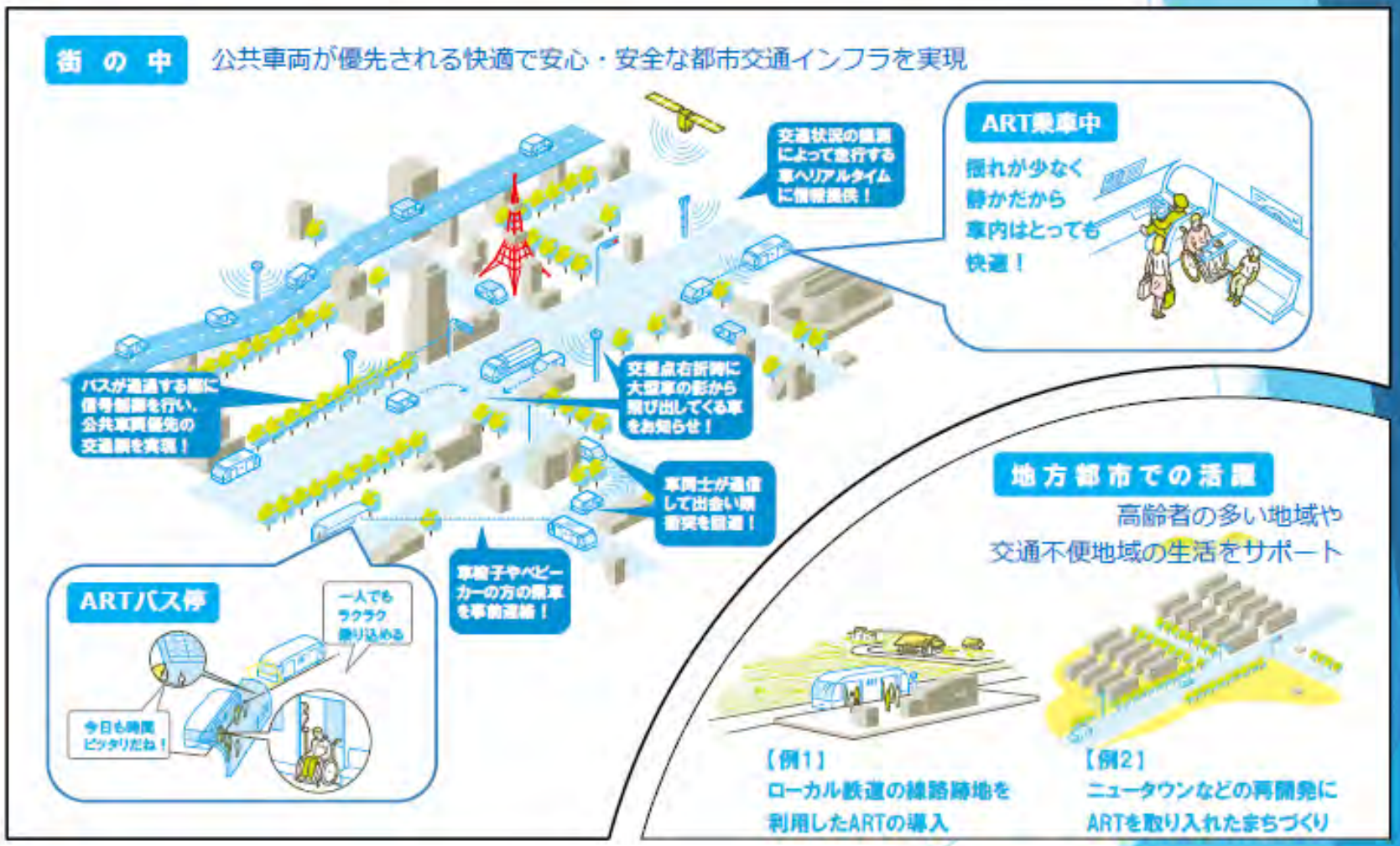
2020年東京オリンピックパラリンピック競技大会におけるARTの実現、世界へのアピールと地方への展開検討。東京都と具体的な路線について検討中。

②③さらなる自動走行技術の活用

移動制約者にもやさしい移動手段の提供等、自動走行技術の活用等を模索。

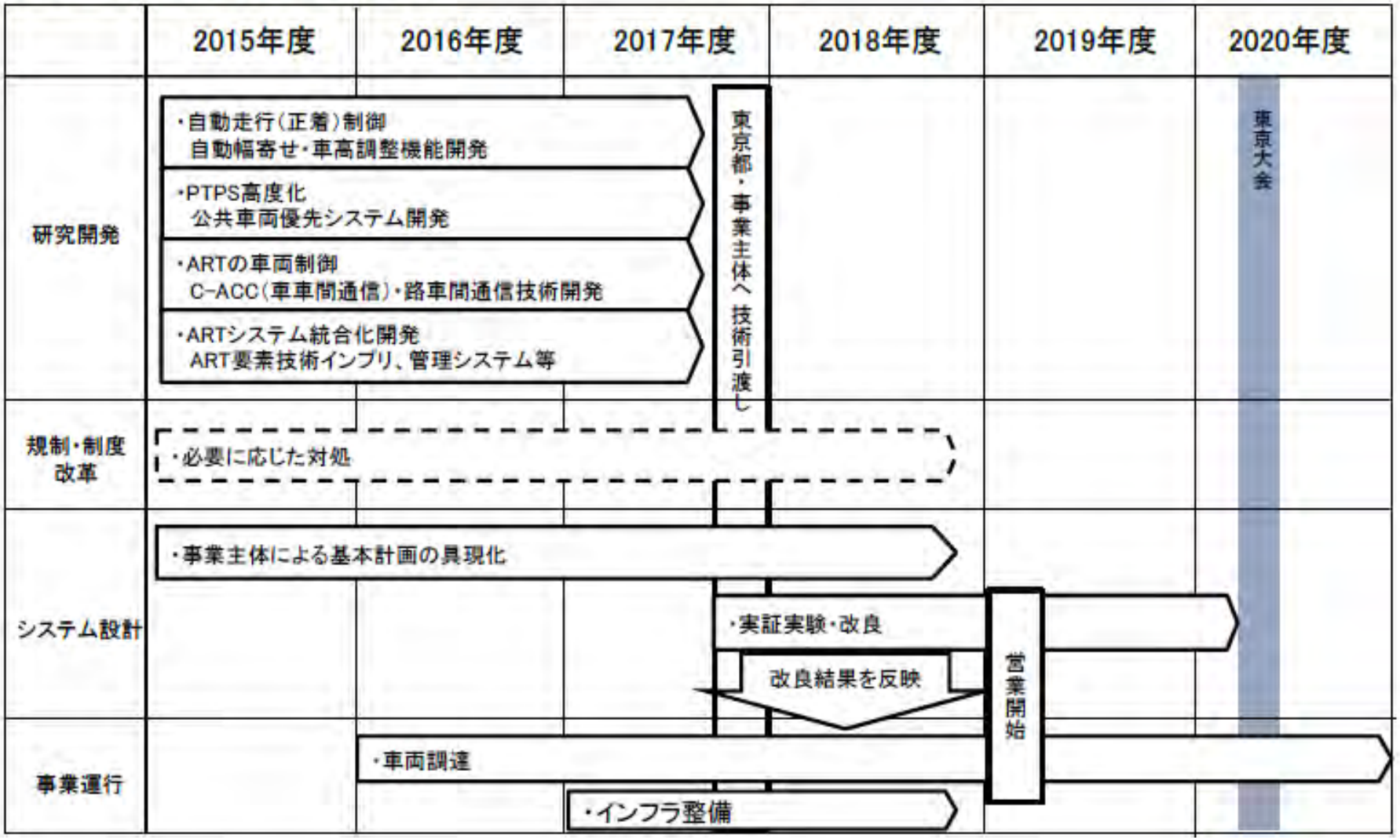
（例）

①次世代都市交通システム「ART：Advanced Rapid Transit」の実現



1. 次世代都市交通システム・自動走行技術の活用

①次世代都市交通システム



②③自動走行システムのさらなる活用

ドライバー不足解消、CO2排出量削減

- 前方の車両を自動で追尾（高速道路等）。
- ドライバー不足解消、省エネ、CO2排出量削減等に貢献。

高齢者等にもやさしい移動手段の確保

- 高齢者や子育て世代、車いす利用者等の移動制約者にもやさしい移動手段の提供。
- 移動制約者のQOL（quality of life）向上に貢献。

ラストワンマイル自動走行の例

1. 次世代都市交通システム・自動走行技術の活用

②高齢者等の移動手段の確保

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
事業モデル検討	・事業モデルの明確化を推進					東京大会
実施場所検討		・実施場所を選定				
技術・制度環境検討		・技術の開発・安全性の検証・改良等を実施				
事業運行					・可能なものから実証事業開始	

③隊列走行の実現

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
事業モデル検討	・事業モデルの明確化を推進					東京大会
実施場所検討		・実施場所を選定				
技術・制度環境検討		・技術の安全性の検証・改良等を実施				
事業運行					・可能なものから実証事業開始	

平成27年6月30日閣議決定

官民ITS構想・ロードマップ2015　概要

- **自動走行を含むITSを巡っては、大きなイノベーションの変化の中にあり、競争環境は刻々変化。**
- **最新の状況を踏まえつつ国家ITS戦略を推進するため、昨年策定した官民ITS構想・ロードマップ(※)を改定し、引き続き、世界最先端のITSの構築、自動走行に係るイノベーションの世界の中心地となることを目指す。**

※「原則毎年PDCAサイクルを通じて見直しを行い、必要に応じて本ロードマップの修正を行う」との記載を踏まえ、今回改定。

＜ITSを巡る環境の変化＞

自動走行の開発競争の激化

- ✓ 世界の各社（IT企業・ベンチャー含む）が、次々と自動走行システムの野心的な開発計画を発表。
- ✓ 世界的な制度改正に向けた動き（ジュネーブ条約等）

⇒我が国が狙うべき自動走行システムの明確化の必要性
⇒国際的動きに対応した国内での導入促進等に向けた取組の必要性

IoT化、AI化等の技術の進展

- ✓ IoT化の進展によるデータの流通構造の変化
- ✓ 自動走行における「IT・データ」の重要性の高まり（AI化、地図情報基盤等）
- ✓ サイバーセキュリティへの対応

⇒交通データの利活用に係る戦略の必要性
⇒技術進展を見据えた技術戦略の必要性

＜官民ITS構想・ロードマップ2015のポイント（主な改定・追加点）＞

＜自動走行システム戦略＞

✓ 当面開発普及を目指す具体像の明確化
・それぞれ普及・技術戦略を明記（例）

① グローバル市場での国際競争力強化に資する自動走行システム

② 自動走行機能付き地域公共交通システム

③ 地域コミュニティ向け小型自動走行システム

※市場化期待時期：今後見直しを検討

✓ 技術の進展等を踏まえた技術戦略
・国（SIP等）の研究開発推進とマネジメント
・AI化を踏まえた産学官連携・人材確保、アワード型手法の検討等
・サイバーセキュリティ対応

✓ 制度面、社会受容面での更なる取組
・国際条約対応、HMI研究、社会受容面の強化

＜交通データ利活用戦略＞

※全面的に書き直し

✓ データ流通構造の変化と基本方針
・標準・ルールの整備、オープン化の検討

✓ 当面進めるべき具体的取組

① 地図上への重ね合わせと高度化
※地図情報基盤（ダイナミック・マップ）の研究開発

② 自動車関連データ等の共有化、利活用
※プローブデータ等に係る官民情報連携の推進
※自動車関連情報の利活用

③ ビッグデータの各種政策等への活用
※地方創生その他各種課題の解決

＜世界最先端ITSに向けた横断的取組＞

国際連携とリーダーシップ
- ✓ 国際中核拠点と社会実証プロジェクトの検討
- ✓ 世界への情報発信

東京オリパラに向けて
- ✓ 次世代都市交通システム（ART）の開発・導入
- ✓ その他改革2020に基づく取組

地域での取組・市民参加
- ✓ 国家戦略特区における近未来技術実証に関する取組等の推進
- ✓ 積極的かつ安全な公道実証のための環境整備